かかりつけ医通信その１３

　結婚しようよ！

―　結婚適齢期はないが、妊娠・出産適齢期は存在します。　―

「僕の髪が肩まで伸びて君と同じになったら、結婚しようよ」昭和生まれの方なら、一度は口ずさんだことがないですか？1972年の吉田拓郎のヒット曲です。女性の平均初婚年齢が、24歳ちょっとの時代です。

日本において、少子高齢化の問題がクローズアップされて久しいですが、未だにこの問題は解決の兆しすら見えず、最近では高齢者すら減少し始め、日本のそこかしこで限界集落・消滅集落化の危機が歩み寄っています。

少子化の大きな要因は、晩婚化にあり

平成24年の合計特殊出生率（一人の女性が一生に産む子供の平均数）は、1.4人。僅かながらの微増傾向はあるものの、少子化が続いています。この少子化の原因を探ってみると、実は、晩婚化が大きな要因であることがはっきりと見えてきます。

理想子ども数、予定子ども数は、この40年間あまり大きな変化は認めません。大きく変化しているのは、初婚年齢、初産年齢の遅れなのです。（表1）結婚持続期間が15年から19年までの初婚どうしの夫婦が産んだ子供の数を表す完結出生児数という指標があります。この完結出生児数を年代別でみると、女性の初婚年齢に依存しており、この40年間大きな変化はありません。つまり今も昔も、若くして結婚すれば多くの子供を産み、晩婚であれば子供の数が少ないのです。更に、女性の30歳時点での未婚率は、平成22年より40％を超えています。妊娠・分娩に最も適した年齢を過ぎても、まだ、およそ半分の女性が結婚していないのです。

晩婚は妊娠・分娩には大きく不利

いつ結婚しようが、いつ子供を産もうが、それらは当然個人の自由です。しかし、いつ子供を産むかは、自然の力に大きく制限されています。現在、およそ1年間で3万人の赤ちゃんが体外受精-胚移植術という不妊治療により生れています。また、およそ年間10万人（述べ件数25万件）の女性が体外受精を受けています。日本で1年間に生まれる赤ちゃんの総数はおよそ100万人ですから、体外受精は、不妊カップルに大きく貢献しています。体外受精は不妊治療の最終段階の治療法ですから、実際に不妊で悩まれるカップルは、もっと多いのです。この不妊カップルの増大は、晩婚化、特に女性の年齢が大きな要因となっています。そして年齢因子による不妊は、本質的に有効な治療方法が無いのも大きな問題です。

女性の加齢は、なぜ、妊娠・分娩に不利なのか？

男性の精子は、常に精巣において新しいものが造られるので劣化は起こりません。一方、女性の卵子は胎生期に一度造られると、新たに造られることはなく、大事に卵巣で保管され小出しで使われているので、女性の加齢に伴い、卵子数の減少と卵子そのものに老化・劣化が起きてしまうのです。そのために、加齢に伴い妊孕性の低下、流産率の上昇、染色体異常児の発生率の上昇が起きてしまうのです。（表2）

女性の平均寿命は大きく延びましたが、女性の生殖期間の延長は認められません。生殖機能・妊孕性には、適齢期が確実に存在するのです。

個々人にとっての幸せを考えて

少子高齢化は、日本という社会にとって、とても大きな問題です。この少子化を解決するために、晩婚化を改善していくことは、行政にとっても、社会にとっても、喫緊の課題です。若者の住居や就職、子育て家庭への経済的な支援などを含めて大胆な方策を、早急に打ち出し具現化していかなければならないでしょう。

しかし、日本のため、社会のためなどではなく、個々人の幸せのために、「妊娠・分娩には適齢期がある」という事を、正しく認識して、各々が理想とする家庭を築き人生を歩んでもらいたいのです。子供を望みながら、上手くいかない人があまりに増えてきているのを産婦人医として感じているからです。子供を持つこと、家庭を築くことが、幸せな人生に直結するわけではないでしょう。いや、むしろ多くの苦労を背負う事でもあるでしょう。しかし、その苦労の裏に、大きな幸せと充実した日々があることも確かです。

我々医療者は、妊娠・出産適齢期が確実に存在すること、加齢に伴い確実に妊娠し難くなることを、若い人たちにきちんと理解し、自分の人生の方向性を選択してもらえるように発信していくことしかできません。

社会全体に「子供を産み、育てることは素晴らしいことであり、個人にとっても、社会にとっても最も大事なことの一つ」という認識が広がることを期待しています。

みんな、結婚しようよ！！　あまりに無謀な無責任な妊娠・出産も困りものですが、結婚も子育ても、若さという勢いがきっと大事だよ。

　　　　　　　　　光市医師会　妊産婦・乳幼児保健担当理事

　　　　　　　　　　　医療法人至誠会　梅田病院院長　北川 博之

 昭和30年 昭和60年 平成16年 平成24年
平均初婚年齢 23.8歳 24.5歳 27.8歳 29.2歳
平均初産年齢 25.1歳 25.8歳 28.9歳 30.3歳
合計特殊出生率 2.4人 1.76人 1.29人 1.41人
出生児数 177万人 145万人 113万人 105万人

表1.　晩婚化・少子化の推移

表2. 加齢に伴う流産率、ダウン症発生率

 25歳 30歳 35歳 40歳
流産発生率 12％ 15％ 25％ 51％
ﾀﾞｳﾝ症発生率 1/1250 1/840 1/356 1/94